

Aルート

(約60分コース)



大杉神社



防火水槽
防火水槽こえてすぐ右



大森鳥見神社 おおもりとりみじんじや
大森鳥見神社は、鏡速日命(にぎはやひのみこと)・御炊屋姫命(みかしきやひめ)・宇摩志真知命(うましまちのみこと)の三柱(神様の数え方)を祀っています。本殿には四間に見事な彫刻が施されています。

杉の木立に囲まれた境内は、797坪の広さを有し、さらに拝殿の左右に榎(かや)と銀杏の御神木は樹齢500年以上の巨木です。現在、平岡の鳥見神社に伝わる獅子頭と獅子舞は、元来、大森の鳥見神社に伝わるもので、文明年間の頃から獅子舞が社前で舞われていたと伝えられています。



長楽寺梵鐘 ちょうらくじほんしやう
総高80.5cm、口径48.6cm、三段組で錆上げられた梵鐘です。この梵鐘の中段には15行107文字の銘文が刻まれています。この銘文から、応安2年(西暦1396年)11月6日に家吉という人物が河内権守が製作した梵鐘を下総国埴生西大森郷の長楽寺に奉納したことがわかります。



中ノ口浅間神社 なかのうちせんげんじんじや
浅間神社は、富士山を神格化して祀る神社として各地に創建されています。その名称は本来「あさま」ですが、最近では「せんげん」と呼ぶ場合が多くなっています。中ノ口の浅間神社もそのひとつで、「せんげん様」と呼ばれ、親しまれています。大森地区後産山(ごあんやま)と呼ばれる場所に鎮座するこの神社の祭神は、木花開耶姫命(このはなさくやひめのみこと)で、真文年間に手賀沼周辺が開拓され、中ノ口新田が開発されました。この成功は神徳のおかげと「鎮守中ノ口浅間」と称して天下泰平、五穀豊穡、子孫繁栄守護の神として信仰を集めるようになりました。



説明看板



周辺案内図

かみじゆくふん
上宿古墳
家の中
ありますので
声をかけて見学しましょう。



上宿古墳 かみじゆくふん
大森上宿の竹林の中に存在する上宿古墳は、横穴式石室(埋葬のための部屋)を持つ古墳です。この古墳は木下貝層から切り出した石材(貝化石)を積み上げて造った石室が良好な状態で残っています。

